

2024年度 年次報告書

(2024年4月1日～2025年3月31日)

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA
Annual Report 2024-2025



©N.Ikegami

2024年12月13日『ばらの騎士』指揮：ジョナサン・ノット
カーテン・コールより

ご挨拶

平素は東京交響樂團をご支援いただき、心よりお礼を申し上げます。
2024年度の活動をご報告させていただきます。東京交響樂團は、2026年の創立80年に向けて新たな活動と体制を作り上げて参ります。

2024年度活動概要

【定期演奏会】

4月（第719回）フィンランドの指揮者サカリ・オラモが東響定期に初登場。ソプラノ アヌ・コムシの澄んだ歌声によるサーリアホの歌曲とシベリスの交響詩「ルオンオタル」は、自国の空気を感じさせ、ドヴォルザークの8番ではオーケストラから激しさをも引き出した。



5月（第720回）ジョナサン・ノットの指揮による武満、ベルク、そしてマーラー：大地の歌。ベルクではソプラノの高橋絵里、マーラーではメゾソプラノのドロティア・ラング、テノールのベンヤミン・ブルンスの好演が光った。

6月（第721回）は、新鋭マトヴィエンコがラヴェル「道化師の朝の歌」「マ・メール・ロア」、ストラヴィンスキー：ペトルーシュカという物語性のあるプログラムを精緻な指揮で聴かせた。

7月（第722回）は、ノットがブルックナー7番の前にラヴェル：クーブランの墓を合わせ、8月（第723回）は原田慶太楼が、絶大な人気を誇るピアニスト角野隼斗のガーシュウィンと東響コーラスを配したプーランク：グローリアなどプログラムを指揮し、その多様な音楽性を示した。



9月（第724回）は、秋山和慶指揮者生活 60周年記念の定期演奏会は、当団と歴史を共にし



た秋山が竹澤恭子のベルク：ヴァイオリン協奏曲、ブルックナー「ロマンティック」を選んだ。残念なことにこれが最後の東響定期演奏会出演となってしまった。

10月（第725回）

元首席客演指揮者のクシシュトフ・ウルバンスキはショスタコーヴィチ交響曲第6番で、その緻密な音楽作り示した。



11月（第726回）デュリュフレ：レクイエム、12月（第727回）ベートーヴェン：交響曲第5番「運命」と続けて、ノット監督による個性あふれる演奏が続いた。

3月（第728回）フィンランドの巨匠 オスモ・ヴァンスカが当団初登場。その精密な指揮により、プロコフィエフの内面の屈折が表現された。



【その他主催公演】

【東京オペラシティシリーズ】では、1シーズンに3人のヴィオラ・ソリスト（青木篤 / ベルリオーズ「イタリアのハロルド」、サオ・スーレズ・ラリヴィエール / 酒井健治：ヴィオラ協、ティモシー・リダウト / ウォルトン：ヴィオラ協）が登場し、それぞれ個性あふれる演奏を披露した。6月は沼尻竜典によるグレツキ：「悲歌のシンフォニー」、7月の大友直人エルガー交響曲第1番、9月台湾出身の期待の指揮者トンチエ・ツェンの登場、そして12月は秋山和慶の指揮により最後となったベートーヴェン「第九」で2024年を締めくくった

【川崎定期演奏会】は、定期演奏会からピックアップした5公演を主催し、うち4公演をニコニコ東京交響樂團で無料ライブ配信し、多くの視聴者を得た。

【特別演奏会】

R. シュトラウス・オペラ第3弾、そしてシリーズ最後のオペラとして、「ばらの騎士」（演奏会形式）をカットなしで上演した。演出監修はトーマス・アレン。元師夫人ミア・パーション、カトリオーナ・モリソンのオクタヴィアンをはじめ、充実した歌手陣と演奏会形式ならでの充実したオーケストラを聴かせた。



8月に原田慶太楼プロデュースによる「軽井沢シリーズ第3回」を大賀ホールで実施。角野隼斗ほか出演の「カプースチン・スペシャルナイト」も話題となった。12月のノット指揮「第九」2公演、ニューイヤーコンサート、3月にはブレイキンの Shigekix やミュージカルの岡幸二郎が出演したかわさきシンフォニー・ポップスを開催した。



(ブレイキンとオーケストラの初コラボレーション)

【フランチャイズ事業】

川崎市市制100周年、ミューザ川崎シンフォニーホール開館20周年の記念年で、「モーツァルト・マチネ」は60回「映画音楽」は15回を迎えた。他に「ミューザの日」「ジルバスター・コンサート」、「フェスタサマーミューザ KAWASAKI」といった定番のコンサートが川崎市文化財団の主催で開催された。共催の「名曲全集」は全10公演中4公演をニコニコ東京交響楽団で無料配信し、全国のファン視聴していただいた。新潟定期演奏会は計5公演が催された。

【青少年育成プログラム】

ズーラシアンブラスとの共演で好評の「0歳からのオーケストラ」は1日2公演完売、「こども定期演奏会」は、角田鋼亮、下野竜也やピアノ：牛田智大、こども奏者の出演もあり4公演を完売し、高い評価を得た。

【アジア・プロジェクト】

日本芸術文化振興会の助成を受けて進めている、国際交流を目的とした＜アジア・プロジェクト＞が2年目を迎え、タイ・ロイヤルバンコク交響楽団との共演、シラパコーン・サマー・ミュージックスクール、在タイ日本大使館ナショナルデーレセプションでの演奏など、タイを中心とした交流プログラムを実施した。



【依頼公演】

新国立劇場のオペラ「さまよえるオランダ人」「フィレンツェの悲劇／ジャンニ・スキッキ」、「カルメン」とバレエのトリプル・ビルを演奏し、高く評価された。



(ビゼー：オペラ『カルメン』撮影：堀田力丸 提供新国立劇場)

学校巡回公演では、千葉県、東京都、新潟県の小・中学校で計12公演を行い、各地に音楽を届けた。

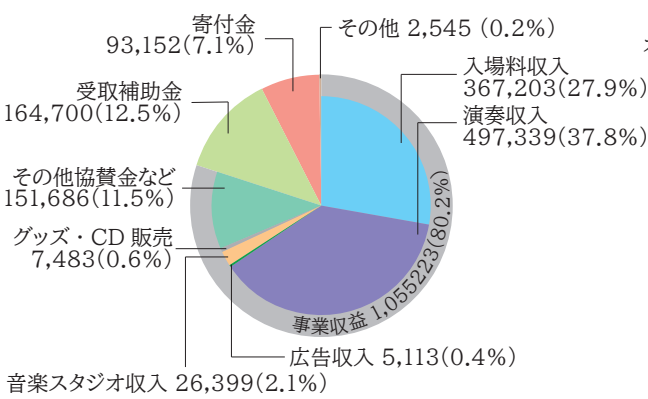
演奏会記録（全153公演）

自主公演（54回）		依頼公演（85回）	
定期演奏会（第719回～第 728 回）	10回	新潟定期演奏会	5回
川崎定期演奏会（第95回～第104回）	5回	オペラ・バレエ公演	22回
東京オペラシティシリーズ（第138回～第144回）	6回	音楽鑑賞教室・青少年のためのプログラム	29回
名曲全集（第196回～第205回）	10回	録画・録画	0回
こども定期演奏会（第89回～第93回）	4回	その他	47回
特別演奏会	15回		

財産・運営状況について

正味財産増減計算書の概要			
科 目	2024年度	2023年度	2022年度
経 常 収 益 計	1,315,620	1,285,081	1,276,153
内・事業収益	1,055,223	968,527	1,019,983
内・受取補助金	164,700	207,975	132,787
内・寄付金	93,152	103,638	113,316
経 常 費 用 計	1,313,977	1,311,643	1,245,701
当期経常増減額	1,643	△26,562	30,452

収入（2024年度）1,315,620（単位：千円）



支出（2024年度）1,313,977（単位：千円）

